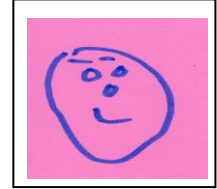




学校だより



1月号 県立藤沢養護学校 平成30年1月9日

絵 中学部3年

平成30年がスタートしました。今月号は、昨年的一大イベントであった、文化祭についての特集号です。一人ひとりが、一つの目標に向かって取り組んだ成果が出ていて、とても素晴らしい発表でした。頑張った子どもたちの様子をご覧ください。



いよいよ3学期がはじまります



校長 佐藤元治

新年、あけましておめでとうございます。児童生徒のみなさん、今年も一人ひとりがキラキラ輝く一年になるよういろんな事にチャレンジしていきましょう。保護者のみなさま、地域のみなさま、昨年中は多大なるご支援、ご協力ありがとうございました。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、今年度は藤沢養護学校開校40年の年ということで、文化祭のオープニングで児童生徒のみなさんとお祝いをしました。昭和52(1977)年に県立平塚ろう学校の仮校舎で産声をあげ、翌昭和53(1978)年にここ亀井野の新校舎に移転しました。小学生、中学生合わせて12人で始まった藤沢養護学校も開校満40年を迎えた今年度の4月には、亀井野の本校と、県立鎌倉高等学校内の鎌倉分教室に238名の児童生徒が通っています。40年前の落成記念式典の初代校長 北郷先生は、「今までにない近代的な建築であり、各教室は、この上なく、調和のとれた、落ち着いた色彩が配され、すべてが使い易くなっております。」とお話されています。校舎は少々古くなりましたが、児童生徒みんなが愛着を持って大切に使っているの、時間の経過と共に醸成された温もりが感じられます。そんな味のある校舎に響く賑やかな笑い声と、一人ひとりのキラキラと輝いている姿は、藤沢養護学校が生まれた日から40歳になった今でも変わらずに受け継がれています。

今年も子どもたち一人ひとりが、その子なりの役割を果たすことで、「人に認められ、期待されること」、「誰かに必要とされ、役だっていること」を実感できる毎日を送れるよう、教職員一同力を合わせて日々の教育活動に取り組んで参ります。保護者のみなさま、地域のみなさまをはじめ、関係諸機関のみなさま方には、どうぞ引き続き、本校の教育活動へのお力添えを賜りますようお願いいたします。

小学部発表『シング』

小学部担任

「あれ？今日はお客さんが少ないなあ」

お客さんを集めるため、オーディションを開くことにした劇場のコアラたち。様々な動物たちが、オーディションを受けるために劇場にやってきました。トップバッターは1年生が演じる仔牛のモーモーダンサーズ。ひとりひとりが堂々とツリーチャイムを響かせました。続いて2年生のブタさん。可愛いリボンダンスでオーディションを盛り上げます。エントリーNo.3は3年生のハリネズミさん。ギターでロックな音色を響かせオーディションは最高潮に。続いては4年生、5年生のねこ忍者です。曲に合わせながら手裏剣をかわし、太鼓と鳴子のリズムも力強くバッチリです。そしてラストはコアラさん。曲のリズムに乗って息の合ったダンスを披露し、オーディションは無事終了しました。なんと全員合格です！お祝いにみんなで「チエケマッコ」を踊り、劇場にも活気が戻ってきました。練習を積み重ね、本番でも日頃と変わらない元気で伸び伸びとした様子をお見せすることができました。温かい拍手とご声援をありがとうございました。

笑顔が輝いた「みんなでなかよくレッツ・トライ！」 中学部担任

中学部の発表は、1・2年生の合奏「ドレミの歌」とダンス「きらきら武士」、3年生の合奏「雨のワルツ」、リボンダンス「トレパック」とフラダンス「月の夜は」、全学年でのダンス「トライ・エブリシング」でした。中でも「きらきら武士」は3年生にも好評で、事前学習で初めて披露された時から「かっこいいね」との声が出ていました。また、3年生の「月の夜は」は「みんなの時間」（総合学習）に近隣の「オキカ・フラサークル」の方々から教わったダンスでした。ステージに立つことに不安を感じやすい人たちも練習を重ねることで自信を持ち、本番のステージではみんなが楽しんで発表することができました。事後学習で自分たちのビデオ

を観ると、「がんばった」「楽しかった」「みんなの笑顔がよかった」などの感想が出され、まさに今年のテーマのように、笑顔が輝いた文化祭になりました。

テーマは「夢」

高等部1年担任

今年の1年生のステージ発表は「夢」をテーマとして、「マッチ売りの少女」の話をベースにバンド（楽器）、RPG（演技）、サッカー（演技）、ダンスに挑戦しました。高等部に入って初めての文化祭でしたが、みんな堂々とした態度で力いっぱい演技を見せてくれました。バンドグループは、「藤養の宝」を演奏し、バックの太鼓も力強く叩いて、アンコールもあり、みんな楽しく演奏できました。RPGグループでは、ゲームの舞台とのラスボスと正義のヒーローとの戦闘シーンは、手に汗握る壮絶な戦いでした。サッカーは、流暢なアナウンスや見事なシュートやパス回しを見せてくれました。ダンスグループは、パフュームの曲でリズムをとりながら、かっこいい踊りを披露することができました。最後の全員歌唱『レイン』は、音楽や文化祭練習の時間はもちろん、毎朝登校して集まって被服室で練習していました。そのため、たくさん気持ちを込めて歌うことができました。当日、生徒は、「緊張したけど頑張った」「来年もやりたい」と充実した表情をみせてくれました。最後に、ご参観・ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

「高2『劇団レッドブルー』公演大成功！」

高等部2年担任

高等部2年のステージ発表「泣いた赤おに 2017」の原作は、浜田広介作の有名な童話「泣いた赤鬼」ですが、もう一つモチーフにした話がありました。私が本校中学部の元教員水野三郎さん（故人）と一緒に作った絵本「桜まつりと鬼だっこ」です。鬼が岳という山で人間と同じように暮らしていた鬼たちがふもとの村で開催される「桜まつり」に太鼓一座として出演するが頭巾が取れて角が見えると村人たちは逃げ出してしまふ。失意の鬼たちが発起して翌年のまつりに鬼太鼓と正直に名乗って出演し、村人と融和するというストーリーで、瀬谷養護学校の学習発表会での影絵劇用に制作したものでした。昨年7月の相模原事件の犯人が「障がい者なんていなくなればいい」と言ったことに抗議する意味からも、私は今回、鬼が人間の差別、偏見に立ち向かう物語である「泣いた赤鬼」そして「桜まつりと鬼だっこ」を主題にした劇を是非作りたいと思いました。そして、主役の赤鬼青鬼にちなんで劇団レッドブルーと名づけた高2の生徒たちの熱演は、本当に素晴らしいものでした。劇を終えた瞬間私は、太鼓、ダンス、踊り、演技と、予想を超える生徒たちの潜在能力の高さと、80年以上前に作られた名作の持つ力に圧倒される思いがしました。

友だちと未来に向かって

高等部3年担任

群読、歌、ダンス。藤沢養護学校での3年間の学びの成果を、このステージに注ぎました。この日に向けて少しずつ練習を重ね、お互いに相手の気持ちを思いやるようになり、それにつれてパフォーマンスもみるみる上達しました。友だちとの言葉のバトンが繋がるとこんなにも大きな力になり、人々を感動させることができる。子どもたちも、そのことを少し感じる事ができたと思います。

「こだま」、「出会い」、「あいたくて」そして「教室はまちがうところだ」。藤沢養護学校の生徒としての発表は終わりましたが、これからもいろいろな人との新しい出会いを経験し、社会人として素敵な大人になっていくことでしょう。残り少ない学校生活ですが、この経験を噛みしめて学んで欲しいと思います。

当日、私たちの発表を観に来ていただいたみなさん、どうもありがとうございました。そしてこれからも子どもたちと共に、時には寄り添い、時には距離を置きながら、未来に向かって歩んでいただけたらうれしく思います。

ツナガル方程式

分教室担任

鎌倉高校の合唱コンクールや鎌人いち場など行事が立て込む中でも、気持ちを切り替えて全員で文化祭という1つの目標に向かって頑張る姿は目を見張るものがありました。3年生は全体をみて先生の手伝いや後輩のフォローをしたり、2年生は先輩の後ろ姿を見て真剣に取り組み、1年生は先輩たちに必死についていこうとひたむきに取り組みました。今回は鎌倉を中心に活動しているバンドのアサハカさんと一緒に作った「ツナガル方程式」を披露しました。生徒たちが作詞し、アサハカさんに曲をつけてもらいました。文化祭ではお客さんにも手拍子で参加してもらい、みんなが一つになる発表ができました。文化祭の事後学習では合唱で指揮をした生徒に代表で感想を発表してもらい、「みんなが主役だと思える文化祭でした」との言葉がありました。大きな拍手が自然とおこり、キラキラした笑顔が飛び交いました。